

## 沼津御用邸編年史

沼津御用邸の歴史は、明治26年、大正天皇(当時皇太子)の静養先として建設された本邸の造営に始まります。当初は、御座所(居間)、御学問所、御寝室、御食堂、湯殿(お風呂)などを含む木造平屋建ての和風建築でした。

明治28年頃から御玉突所(ピリヤード部屋)や侍医の詰所、馬を飼育していた厩舎などの附属建物も次第に整備され、乗馬を楽しむことができる馬場も新設されました。

その後、増築工事が進み、明治33年には建築面積は当初の2倍となりました。また当時、全国の御用邸として初めての洋館が新築されました。設計を宮廷建築家の片山東熊と河面徳三郎が担当し、均整と調和を重視したルネサンス様式を基調とし、小規模ながら明治後期の宮殿建築として建築史に残る建物だったといわれています。この段階で建築面積は附属建物を含めて5千平方メートルとなり、沼津御用邸は完成を迎えます。

さらに、明治36年、赤坂離宮の東宮大夫官舎を移築した東附属邸が造営され、同38年には本邸隣にあった川村純義海軍大将の別荘を買い上げ、西附属邸とします。昭和天皇は日常のおくつろぎやお休みにられる時は西附属邸をよく利用され、本邸は人とお会いになるなど公務の場として使われていま

した。  
シンプルながら丁寧な造作で落ち着いたある建物と風光明媚な景観が調和した沼津御用邸は明治、大正、昭和の時代に皇族方に長く愛され、よく利用されてきた記録が残っています。

### 皇族方が楽しんだ潮騒のまち

沼津御用邸への、皇族方の最初のご滞在は明治26年7月、御用邸が完成した直後に行われた大正天皇(当時皇太子)によるもので、この時はおおよそ1カ月滞在されました。その後もご利用の機会が多く、延べ日数にすると千日以上を沼津御用邸で過ごされており、この地で狩猟などを楽しまれることもありました。昭憲皇太后(明治天皇后)も度々ご滞在になり、現在の我入道公園に立ち寄った際に花を愛でられていたことから、崩御後に記念碑が建立されています。

昭和天皇はご誕生の翌年から沼津で冬の季節を過ごされました。ご滞在中はご兄弟の宮様や御学友たちと近隣をお散歩されたり、舟で静浦方面にお出かけになられるなどして沼津を楽しまれました。

現在の上皇陛下も皇太子時代に、疎開生活や戦後の復興期にご滞在され、狩野川花火大会をご覧になったり隣接する学習院沼津游泳場で海水浴を楽しんだといえます。また、昭和37年8月には約1週間、美智子上皇后陛下、今上天皇陛下ご同伴でご滞在されたほか、



8 6



8 6



5



2 1



2 1



9 7



9 7



3

<右ページ>

1. 御用邸西附属邸正門は、現在の記念公園の正面入り口
2. 現在もその面影を残す西附属邸の車寄せ
3. ルネサンス様式を基調とした本邸の洋館(沼津大空襲で焼失)  
(※1~3の写真は宮内庁宮内公文書館所蔵資料より)
4. 昨年11月に上皇上皇后両陛下から沼津市に下賜された棗

<左ページ>

5. 古写真をもとに復元された西附属邸の御玉突所
6. かつて本邸の正門として使用されていた、ドイツ製の重厚な意匠の青銅門
7. 西附属邸内にある謁見所。明治期に創られたと思われる玉座も観覧可
8. 平成12年に皇后陛下(当時皇太子妃)と共に沼津御用邸記念公園を訪れた今上天皇陛下(当時皇太子)
9. 今上天皇陛下(当時皇太子)が平成26年に沼津アルプス登山を楽しまれた際の様子



4

御用邸が本市に貸与された後も、沼津にお立ち寄りになられています。  
今上天皇陛下(当時皇太子)は平成12年、雅子皇后陛下(当時皇太子妃)とともに西附属邸などをご覧になられました。また、平成26年には沼津アルプスの山々を登山され、海と山に囲まれた沼津の景観を楽しまれています。さらに、愛子内親王殿下は学習院初等科の卒業記念文集「桜愛集」に、学習院沼津游泳場での思い出をつづられています。  
このように静養先としての役割を終えたあとも、皇族方に愛されてきた沼津御用邸。その存在が地域に与えた影響は大きく、消防防災活動の強化や環境美化、文化面の充実、知名度の向上や地域経済の活性化など、多岐にわたったものと考えられます。

### 私たちに継がれた趣

市では、沼津御用邸造営百周年、市制70周年にあたる平成5年から、本格的に建物の改修と庭園の再整備に着手しました。東附属邸は当時の雰囲気そのままに研修室として利用ができていたり、茶会を開催することができるようになっています。また、西附属邸は貴重な調度品を可能な限り忠実に再現し、建物はもちろん、建具や金具など様々な資料を観覧できます。

皇族方の愛した沼津御用邸の趣を、これほどまでに間近に見ることができるようにも、私たち沼津市民の誇りといえるでしょう。